



た の う え            みのる

## 田 上            實 氏

生年月日    大正 5 年 3 月 15 日生

住        所        田辺市あけぼの

大正 5 年 (1916 年) 3 月 15 日、西牟婁郡栗栖川村 (現田辺市中辺路町栗栖川) で山林業を営む両親の次男として生まれる。幼少の頃から絵に素質があり、「御大典(ごたいてん)記念」に応募した絵が入賞するなど早くからその才能を開花させる。その後、和歌山師範学校に入学するに至り、本格的に絵の勉強を始める。

昭和 10 年 (1935 年)、師範学校を卒業後、田辺第二小学校訓導として赴任するが、画家への思いが深く上京を決意するところとなり、東京都内の小学校に奉職、昼間は教師として教壇に立ち、夜間はデッサンの勉強のため絵画教室に通う、という日々を送る。しかし、小学校の教職と絵画の勉強の両立を前に二者択一を悩み続けるが、同僚の影響もあって教師としての仕事に魅力を感じる心境の変化に加え、戦時下という情勢もあって帰郷、田辺第一小学校教諭に戻る。以来、昭和 50 年 (1975 年) に上富田中学校の校長をもって退職するまでの 40 年間、教育の現場で児童・生徒の育成と学校教育の充実・発展に尽くす。

画家への夢は、当然のごとく退職後よみがえり、再びキャンバスに向かうこととなる。故益山英吾氏 [第 4 回(昭和 48 年)田辺市文化賞受賞] (光風会・日展会員) に師事し、昭和 51 年 (1976 年) には「光風会」において初入選を果たす (以後 24 回連続入選)。さらに平成 4 年 (1992 年) には 75 歳にして「日展」への初入選の栄を得、以後 4 回連続入選を果たすなど、中央画壇へ進出する。

一方、昭和 61 年 (1986 年) には田辺美術協会の副会長に就任、当時の益山会長を補佐し、協会の発展に大きく尽力、平成 12 年 (2000 年) には益山会長の後を引き継いで協会の会長を務め、平成 14 年 (2002 年) に退任するまでの間、協会の運営はもとより、当地方の美術振興の先達としてその手腕を振るい活躍。その傍らで昭和 28 年 (1953 年) 以降、田辺市美術展覧会運営委員 (「洋画の部」審査員) を通算して 35 年間にわたって務め、同展覧会の充実・発展に寄与する。

また、「日展」連続入選を記念して初めて開催した個展では、その収益金の全てを福祉施設に寄付し、社会福祉面でも貢献するほか、田辺・西牟婁地方の 4 ヶ所の公民館において絵画サークルの講師を務めるなど、教職を退職後の生活の中心に画業を据えて創作活動に一意

## 第 36 回 (平成 17 年)

専心、数々の優れた作品を制作する一方で業績を重ね、田辺市はもとより当地方の芸術・文化の振興に大きく貢献する。

### (略 歴)

昭和 10 年 (1935 年)	和歌山師範学校卒業
昭和 35 年 (1960 年) 4 月	中辺路町立二川中学校校長
昭和 37 年 (1962 年) 4 月	上富田町立朝来小学校校長
昭和 45 年 (1970 年) 4 月	上富田町立上富田中学校校長
昭和 50 年 (1975 年) 3 月	上富田町立上富田中学校校長を退職

### (その他)

昭和 28 年 (1953 年)	田辺市美術展覧会運営委員 (「洋画の部」審査員)
昭和 29 年 (1954 年)	田辺美術協会幹事
昭和 61 年 (1986 年)	田辺美術協会副会長
平成 12 年 (2000 年)	田辺美術協会会長 和歌山県美術展覧会審査員
平成 14 年 (2002 年)	田辺美術協会顧問

### (受賞歴)

昭和 51 年 (1976 年)	光風会初入選 (以後 24 回連続入選)
平成 4 年 (1992 年)	日展初入選 (以後 4 回連続入選)